

第 10 回 第二期武蔵野市産業振興計画策定委員会会議録

【会議概要】

日 時	平成 31 年 3 月 22 日 (金) 16 : 00 ~ 17 : 30
場 所	武蔵野商工会館 3 階消費生活センター講座室
出席委員	福田敦委員長、松岡拓公雄副委員長、姫野裕基委員、稲垣英夫委員、花俣延博委員、黒竹光弘委員、西塚裕行委員、目黒裕人委員、渡邊昭浩委員
欠席委員	榎本一宏委員、川口幸子委員、野口篤志委員
事務局	生活経済課 西川課長、平塚課長補佐、吉崎係長、劔持主任、北村主任 パシフィックコンサルタンツ株式会社 2 名
オブザーバー	武蔵野市商店会連合会 1 名、武蔵野商工会議所 1 名
傍聴者	2 名
会議次第	1 開会 2 議事 第二期武蔵野市産業振興計画 (案) について 3 その他 4 閉会
配布資料	次 第 資料 1 第二期武蔵野市産業振興計画策定委員会 第 9 回策定委員会会議録 資料 2 第 9 回委員会でのご意見と対応 資料 3 第二期武蔵野市産業振興計画 (案) 資料 4 第二期武蔵野市産業振興計画 (案) 概要版

【議事】

1 開会

2 議事

第二期武蔵野市産業振興計画 (案) について

委員 長	今回が最終回の委員会となる。6 月から月 1 回程度と開催してきた。前回委員会でも出された意見等が反映された計画案が提示されている。最終回であり、この会議の中で計画案の最終確認をした上で、ご承認をいただくことになる。よろしくお願ひします。
事務局	<資料 2・3・4 資料説明> 本書と概要版については、印刷すると同時に市の HP 上で公開をしていきたいと考えている。
委員 長	本編と概要版については、最終的に市の HP に 5 年間の計画として公開するとのことである。最後に次期計画の改定についても謳われている。 前回委員会のご意見を反映していただいている。この案についてご意見等はあるか。
委 員	市として産業の位置づけは、予算的なものも含めどのようになっているのか。
事務局	予算的にみると比率としてはあまり大きくない。工業団地を造成するといったハードに関する事業はなく、産業振興のための補助金や制度融資の利子補給など、主にソフト的な事業の予算である。

委員	市全体予算で約 680 億円であるが、商工費は 5.4 億円程である。労働費は中小企業の互助会の補助金、農業費は農地の保全や農業の振興、商工費はまち場の賑わいづくりが主たるものとなっている。
事務局	本市における産業振興の位置づけとしては、税収面、まちの活性化、まちの賑わいなど、市を維持していくために必要不可欠なものとして認識している。第六期長期計画の策定議論においても、産業振興に力を入れていくべきとのご意見もいただいている。今後は、当計画に沿った形で事業を進めていきたいと考えている。
委員	計画の中にはまちづくりの考え方も含まれる。予算には入っていないのか。
事務局	土木費等の別の費目に含まれる。労働費・農業費・商工費の合計としては 6.7 億円程である。一番大きいのは民生費で約 308 億円である。福祉に掛かる予算が大きく、更にその割合も伸びている。
委員長	本編の P9 に歳入・歳出という形で掲載されている。この費目区分、本文がグラフから少し読み解きにくいかもしれない。凡例等も少し見やすいよう工夫していただければと思う。 商工費はソフト事業に該当するが、商店街の運営やまちづくりの課題が見え隠れしている。BID という考え方、エリアマネジメントの負担金制度が平成 30 年に制度化されている。町の安全・治安・環境、イベント等、担い手と財源に苦心しているところが多く、その取り組みを支援するため、受益者に負担金を求め、その資金がエリアマネジメント活動を実施する団体等に配分される仕組みがある。 今回の計画には入れていないが、今後このような考え方も検討していく必要もあるだろう。
委員	計画書としてはまとまっている。用語解説等も加わり、概要は認識いただけるだろう。
委員	P9 のグラフについては、見た目を見やすく工夫していただきたい。 P53 の点検・評価について、前回の委員長のご意見を踏まえ「外部委員を含む産業・経済政策懇談会や」と修正されているが、前回の議事では「産業・経済政策懇談会を組織しており、この仕組みは今後も活用していきたいと考えている。会議体として見直すことを前提に、外部の方を含む組織については来年度検討する。」としている。会議体の見直しを検討しているのならば、固有名詞として「産業・経済政策懇談会」とするより、前回議事の回答のような表記の方が相応しいのではないかと。
委員長	外部組織の名称については、市の方でお考えいただきたい。外部の方に入っていたら、評価していただくという主旨が伝わればよいと考える。
委員	委員をさせていただき、市内万遍なく意識をもって見るようになり、様々な気づきもあった。計画としてまとまっている。写真や挿絵など入れるとよりわかりやすくなるかと思う。
委員長	読みやすさという点では、工夫の余地もあるかと思う。
事務局	委員会の案としてはこの形をもって答申を行いたいと思う。答申を受け、市として公表する段階で検討したいと思う。
委員	委員にはタツノコプロダクションの方もいらっしゃる。せっかくのご縁であり、活用してもよろしいのではないかと。
事務局	予算や権利関係も踏まえて先方と相談させていただく。
委員	計画としてはよくまとまっている。あとはこの計画をしっかりと実行していただきたい。第一期のレビューも拝見したが、実行できているという感覚が個人的にはなかった。P53 の計画の点検と評価が大事になってくる。第一期で実行できなかったこと

	を踏まえ、体制を組んで進捗の確認等行い、絵に描いた餅にならないようお願いしたい。
委員	分かりやすくまとまっている。広く市民に見ていただくことを考えるに、発信方法を工夫していただければと思う。
委員長	市の HP は公式なものとして柱になるが、それ以外の SNS 等では発信されるのか。
事務局	市の HP のほか、公式 FB や Twitter はあるが、SNS 上で内容までは伝えにくい。SNS での発信については工夫していく。事務局としては、5/15 の市報で計画の概要を紹介していく。 情報の発信については、本計画においても重点事業にしており、今後様々な方法を検討していく。本計画は市民全員にというより、商工会議所等の協力を得ながら、まずは事業者に伝えたいと考えている。
委員	P38 の (2) 3 駅圏ごとの特性と課題を踏まえた産業振興において、吉祥寺駅周辺については、南口の開発について触れていない。また、三鷹駅周辺では、三鷹駅北口の駅前ロータリーの交通体系、玉川上水の整備についても記述が必要ではないか。
事務局	パブリックコメントに対する考え方の中でも申し上げたとおり、吉祥寺駅南口については再開発で動いているものではない。駅前広場の造成については市の事業として行っており、そのような書き方になるかと思う。3 駅圏については P47 でも記述しており、本文の中で都市整備部と調整を図ったうえで検討させていただく。三鷹駅北口については、「三鷹駅北口街づくりビジョン」で検討されているので、同様に、都市整備部と協議のうえ対応する。
委員	P24 でレビューを行ったうえで、課題を記述している。今後の取組みの中で、都市整備部と協議のうえ対応を考えたい。
副委員長	産業振興の方向性などは非常に分かりやすい。これをどのように発信し、浸透させ、どのように理解してもらうかは 1 つの課題だろう。 P37 で、インターネット通販の成長や ICT 化など脅威に掲げられているが、脅威と考えず、積極的にチャンスとして捉えてほしい。脅威ではなく活用していくべきである。 本計画のキーワードとしてインターネットや SNS、観光、イノベーション、コンテンツなど様々あるが、全体をつなげるものとしてあるのは情報化社会。この情報化社会も今は AI 化社会に移行している。情報は十分に行き渡るようになった。我々と違い学生を含め、スマートフォンだけで事が済む。キャッシュレス化もスマートフォンがないとできない。AI 化に移行しているということを感じなければいけない。これらに対応していくことが必要である。 外国人留学生や学生、旅行者を例にとると、情報が取れないことが彼らにとって脅威であり、例えば市内全域で Wi-Fi が整備され、常に情報が取れる環境であれば、それは武蔵野市の魅力のひとつになる。そのようなプロジェクトも考えてもらえればと思う。
委員	Free Wi-Fi が整備されているのは、吉祥寺駅周辺のみである。基地局を作るには費用も掛かる。予算も必要だろう。
事務局	吉祥寺駅周辺の Free Wi-Fi は地方創生交付金を使い整備し、武蔵野市開発公社が管理運営している。環境の変化も想定し、整備当初から当面 5 年間、2020 年度までの運用となっている。他地区についても検討の話は上がったが、現在のところ予算化はしていない。Free Wi-Fi の場合セキュリティの問題があり、その点の難しさも課題になっている。

委員 長	<p>ネットや ICT 等は脅威ではないとの話があったが、アンケート調査等を見ても、中小に限らず EC サイトは脅威となっており、即応が必要とされている。また、プラットフォームによる情報の独占も脅威にあたる。機会として捉えることも大事だが、産業振興の方向性 (3) で、「ICT や AI も活かし…」とあるので、上手く取り入れながらという主旨が含まれている。</p> <p>個別の事業所において、人手不足の中で生産性を高めるためには AI を前向きに考えていく必要はある。一方、マクロレベルで見ると AI や IoT はすごい勢いで日常生活に入り込んでいる。一般の事業者が脅威に感じることは十分にあり得るだろう。策定したら終わりではなく、外部評価や、課題や世間の動きを捉え、今後の施策に活かしていくという位置づけとしての共通認識があると思う。</p> <p>武蔵野市の産業振興計画の改定版としては、目標、施策、優先順位等についても上手く表せている。方向性、施策の柱を市民や事業者とともに共有しながら進めていくことになる。冒頭に、「武蔵野市の産業振興の目標や施策の方向性を明らかにして、市民、事業者、行政、教育機関が一体となり、本市の特性を活かした産業振興を進めていくために本計画を策定する。」といった計画策定の意義の一文があっても然るべきではないかと感じた。</p> <p>軽微な修正はあるかと思うが、おおむねこの計画案について委員会としてお認めいただくということで良いか。</p>
委員 一同	異議なし
委員 長	ご承認いただいたということで、軽微な修正は事務局と正副委員長に一任いただきたい。
事務局	第二期武蔵野市産業振興計画案について、委員の皆様のご承認をいただき、ありがとうございました。本日のご意見を踏まえ軽微な修正を加えた上で、最終案とさせていただきます。3月28日(木)11時から市役所において、策定委員会の計画案として、委員長・副委員長より市長に答申していただきます。
委員 長	以上をもって、「第二期武蔵野市産業振興計画策定委員会」の会議を終わります。ありがとうございました。

3 その他

- ・ 昨年6月から策定委員会の会議を10回、視察1回、計11回を開催しました。この間ご多用の中、毎回ご参加いただきありがとうございました。本日ご承認いただき計画案が完成いたしました。委員の皆様には、ご協力に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

4 閉会

以上